

京都工業会 ニュース

基本理念

—21世紀を担うモノづくり集団—

京都からモノづくりイノベーション

2014 No.378

2014年 京都工業会・新春交歓会を開催

1/20

～和やかに・賑やかに交流～

1月20日夕、ANAクラウンプラザホテル京都において、『2014年 新春交歓会』が、会員企業トップを中心に約160名の出席を得て盛大に開催された。本会の会員相互が和やかに交流し、親睦を深めることを目的とした本交歓会は、今回が21回目となる。

最初に服部重彦会長より、「アベノミクスが円安と株価高を実現したことにより、この一年の我が国経済は順調に回復基調を辿ってきましたが、本年はこれをより定着・発展させるための正念場となります。経済環境が変わる中、グローバル市場における更なる成長のためには、日本が誇る「モノづくり」の向上が尚一層求められてきていると思います。そのためにも会員相互のこれまで以上に緊密な交流を通じて、各企業及び工業会の更なる発展を目指して行きたいと思います。本日は大いに語り合い、楽しんで下さい。」との開会挨拶が行われ、続いて、武田一平副会長の乾杯発声により賑やかに開宴となった。しばらく会食懇談を行った後、会員拡大の取組みにより昨年の総会以降入会された、新入会員25社（正会員18社・賛助会員4社・特別会員3社）の代表が登壇、挨拶が行われると盛大な拍手が送られ、一層華やかな雰囲気となった。続いて恒例の「福引大会」が行われ、会員企業67社より提供いただいた89組にも上る景品の当選者が次々と発表され、各品が舞台上で服部会長はじめ各副会長から手渡されると、会場からは拍手と歓声が何度も沸いていた。



▲新入会員ご紹介

更に会食歓談・交流が進み、会が盛り上がる中、締めくくりのプログラムである、「2014年ハッピーマン選び」が行われた。各テーブルでジャンケンをし、勝ち残った人達が舞台上に集合、そこで再度ジャンケンをして最後に勝ち残った人が今年の幸運の「ハッピーマン」、惜しくも敗れた他の各テーブル代表者が準ハッピーマンとなる、本交歓会恒例の名物プログラムである。「2014年ハッピーマン」は山下武夫氏（㈱オーランド 社長）で、服部会長より記念品が手渡され喜びのスピーチが行われると満場の参加者から大きな祝福の拍手が送られた。

その後も大いに懇親交流が行われ宴が盛り上がる中、依田副会長の閉会挨拶と、飛び入りで富士高分子㈱ 田代社長の余興も行われ、2014年新春交歓会は、盛況裡に閉幕した。



▲福引大会



▲ハッピーマンを目指して、ジャンケン



▲2014年ハッピーマン

昨年度より始まった服部会長が会員企業経営者と親しく意見交換を行うと共に、本会事業への積極的参画をよびかけることを目的とした「会員企業訪問」として次の2社を訪問した。



▲(株)京都製作所にて

（株）京都製作所（伏見区）

各種包装機械及び産業用機械の開発製造会社のトップメーカーとして知られる同社のモットーは、客先のニーズにもとづき、その期待を上回る機械の開発を行い、生産機械に要求される機械の基本機能とともに、客先と共に培われたノウハウを総合的に融合させて新規潮流を形成し、最高レベルの装置を実現し、「単品受注生産」と生産機械にこだわり続ける技術力で応えることである。

当日は橋本会長（本会理事）、木下社長の出迎えと案内により、同社の誇る最新鋭機械の生産ラインと展示ルームでの見学を通じて、“あらゆる職種にモノづくりへ

の情熱とこだわりがあふれる”同社の技術開発力の素晴らしさ、そして橋本会長をはじめとする経営陣の力強いリーダーシップに感銘を受け、同社を後にした。



▲生田泰宏社長（右より1番目）

生田機械工業(株)（伏見区）

ミクロン単位の高精度の加工を実現する国内唯一の伸銅の面削装置メーカーで、日本・韓国・台湾では90%以上のシェアを誇っている。

三代目・生田社長から、創業以来50年間で培ってきた実績と信頼をベースに、今後は特に躍進めざましい中国市場を中心に、全世界でのIKUTAブランドの構築を図っていききたい、（2002年3月、中国蘇州で子会社の生田（蘇州）精密機械有限公司を設立。）中国市場開拓の拠点として積極的な事業展開を行っていききたい、と力強く述べられたのが、極めて印象的であった。

中堅企業委員会 「モノづくり」に徹する業界のリーディングカンパニー

トタニ技研工業(株)を訪問

2月28日、中堅企業委員会（委員長：竹ノ内壯太郎 三和研磨工業(株)社長）では京都市南区のトタニ技研工業(株)に戸谷幹夫社長を訪ね、工場見学及び意見交換を行った。

同社は昭和27年に創業、資本金1億円、売上高80億円（本年1月期見込み）、従業員180名のまさに中堅企業であり、主に袋を造る機械＝製袋機の製造メーカーとして国内はおろか、世界のトップ企業である。

冒頭戸谷社長から、同社の経営理念が紹介された。

- 人と環境保護に役立つ「モノづくり」
- 「モノづくり」は「富の創造」
- 「ものまね」をしない独自開発技術で、常に最高性能を目指す
- フェアな企業活動
- ブランドを守り、信用を守る
- 企業は「人」、人を大事にすることが最重要課題

「モノづくり」、「世の中になければ自ら造る」、「物まねはしない」、「自社開発技術にこだわる」、この姿勢こそが私達のモノづくりの原点である。

このモノづくりを支えるのは人材であり、「技術は人の中に残っている」と思っている。



▲エコファクトリー&オフィスを実現した本社社屋

そのためにも人を大事にすることを最重要課題とし、社員にとりやりがいい職場、誇りを持ち楽しく仕事ができる企業をめざしたい。もう一つ忘れてはならないのは企業としての信頼。社内外に対してフェアに仕事をする、お客様はもとより、協力企業様にも嘘をつかないことも大きな理念であり、当社は目先の利益よりも「信用」に投資してきたこと等について感動的な熱弁を振るわれた。

これを受け最新鋭の本社工場の見学、そして戸谷社長をかこみ経営全般について熱心な意見交換を行い、竹ノ内委員長が、「良い機械作りには、何よりも社員のモラルが必要」ということを教えられた素晴らしい会合になった、との謝辞を述べて同社を辞した。

景況の急激な回復感を反映

前回（一昨年11月）ゼロ回答の「徐々に拡大基調」が54.0%と1位回答になったのが一際目を引き、当面の景気予想として経営者マインドがかなり明るい傾向に変化していることが明らかとなりました。

以下により、今回調査の結果、そして傾向について前回との比較も交えながら、若干のコメントを加えてその抜粋を報告します。

〈調査の概要〉 調査期間 平成25年11月25日(月)～12月27日(金)

調査対象 会員企業トップ 279社

回答数 124社 (回答率 44.4%)

回答会社内訳

〈規模別〉資本金	
2,500万円未満	29社(23.4%)
2,500万円以上5,000万円未満	26社(21.0%)
5,000万円以上1億円未満	26社(21.0%)
1億円以上10億円未満	22社(17.7%)
10億円以上	21社(16.9%)

〈業種別〉					
金	属	15社(12.1%)	印	刷	7社(5.7%)
電	機	33社(26.6%)	建	設	6社(4.8%)
機	械	25社(20.2%)	電力・ガス		0社(0.0%)
化	学	4社(3.2%)	食	品	2社(1.6%)
織	維	0社(0.0%)	そ の 他		32社(25.8%)

(本調査の詳細な報告書は事務局にありますので、ご入用の際はご連絡下さい。)

〔全般的な景気動向について〕

1. 当面の景気動向については、昨今の景況の急激な回復感を反映して前年（一昨年11月）ゼロ回答の「徐々に拡大基調」が54.0%と1位回答になったのが一際目を引く。「現状推移」が39.5%（前回46.5%）と続いた。一方、「徐々に悪化」が前回は44.1%と2位回答であったが、今回は2.4%と激減しており、当面の景気予想として経営者マインドがかなり明るい傾向に変化していることが明らかとなった。
2. 景気が拡大・現状推移と回答した中で、景気拡大はいつ頃本格化するかの問いには、平成26年7～9月が29.8%で1位、同年4～6月が19.8%で2位、同年10～12月が19.0%で3位となり、本年12月末までの本格回復を予想する回答が大半を占めた。
3. 景気好転を受けた中での先行き懸念材料として、本年4月に実施される「消費増税の動向」が47.6%と第1位回答として初登場したのが注目される。2位には「中国経済の動向」が36.3%（前回43.3%）、3位には「民間設備投資の動向」が33.9%（前回22.8%）と続いた。ただ、為替変動の影響を受け、「原材料費及び石油価格の動向」が29.0%（前回13.4%）と大きく増加したのが注目される。
4. 昨年来の円安基調を受けて円相場の今後の予想については、100円前後が49.2%（前回1.6%）と激増して1位回答となり、前回は80円前後が72.4%と断然トップであったが、今回は回答ゼロであった。また自社として望ましいレートについても、100円前後が40.3%（前回26.0%）で1位回答となった。

〔企業活動について〕

業 況： 7～9月は「不変」が45.2%（前回34.6%）と1位、「上昇」が33.1%（前回11.0%）と2位、一方「下降」が18.5%（前回50.4%）

と激減しており、順調な景気回復を裏付けている。10～12月についてもこの傾向がより強まっている。

生産・売上高： 業況と同じく「不変」が41.9%（前回34.6%）と1位、「増加」が38.7%（前回17.3%）と2位になる一方、「減少」が17.7%（前回44.9%）と、これまた激減している。

在 庫： 7～9月は「適正」が87.1%（前回71.7%）で1位、10～12月の予想でも84.7%で1位となり、大きな変化は見られなかった。

収 益： 「不変」が42.7%（前回43.3%）と1位、そして「好転」が33.1%（前回10.2%）で2位となった。

資金繰り： 7～9月は「普通」が前回同様1位の71.8%（前回77.2%）、10～12月の予想でも「普通」が74.2%と大きな変化はなかった。

設備機器： 「適正」が90.3%（前回80.3%）で1位、一方「過剰」は前回11.8%から2.4%と大きく減少した。

雇用状況： 各部門とも「充足(適正)」が1位となり、前回調査との比較で概ね同じような結果となった。「過剰」が減少し、「不足」が増加するという顕著な傾向となった。

設備投資： 「本年度と同規模」が43.5%（前回34.6%）で1位となり、「本年度より増額」が20.2%（前回15.0%）で2位となって、各々前回より増加している。

当面の 経営課題： 「人材の育成」が58.9%（前回33.9%）で前回2位から今回は1位となった。逆に2位には「受注・売上維持向上」が56.5%となり、前回1位（53.5%）より後退した。3位には「営業・マーケティング力強化」が39.5%（前回33.9%）で入った。

江戸時代のものづくりとからくり文化

京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター
所長 後藤 静夫氏

明治期にいち早く欧米の先進的技術を吸収、改良・発展させ我が国産業発展の礎を築いたのは、優れたからくり技術の存在が大きかったといわれていることから、日本のものづくりの原点ともいわれる江戸時代のからくり文化について、京都市立芸術大学・後藤教授をお迎えし、お話を伺った。ご講演では、DVDにより実際にからくり人形が動く様子などを見ながら解説がなされ、からくりとものづくりの係わりを通し、日本のものづくりを見直す有意義な機会となった。



2014年の課題と展望 ～暴れ馬の年明け～

日本経済新聞 編集委員 滝田 洋一氏

わが国経済は順調に回復基調をたどってきているが、本年4月の消費税率アップをはじめ様々な課題も抱え今後の動きが注目されることから、日本経済新聞・滝田編集委員をお迎えし、2014年の経済展望についてお話を伺った。講演では米国・中国を中心にグローバルな経済・政治問題と、国内問題としては消費税、エネルギー問題、貿易・経常収支を解説され、今後のカギとして ①消費税率引上げの環境 ②家計の実質所得の動向 ③企業が前向きに動くか ④安倍政権の外交・安保と経済のバランスを上げられた。



日本経済の現状と展望

日本銀行 京都支店長 鎌田 沢一郎氏

アベノミクス2年目の経済・財政政策が注目される中、日本銀行京都支店長・鎌田氏をお迎えし、日本経済の動向についてお話を伺った。わが国経済については「現状緩やかな回復を続けており、消費税率引上げ前の駆け込み需要も見られる。先行きはその反動の影響を受けつつも、緩やかな回復を続けていくとみられる。」とされた。更に今後の課題として財政問題を上げられるとともに、成長戦略として「世界最大の成長センター・アジアの中に日本はあるという有利な点を活用していく必要があるのではないか」と述べられた。



訃報



中沼 壽氏

(中沼アートスクリーン(株)代表取締役)
(平成18年5月～ 本会監事)
3月16日、ご逝去されました。
(享年81歳)

中沼様には、永きにわたり事業運営に多大のご貢献をいただきありがとうございました。ここに、会員各位とともに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

京都高等技術・経営学院

第33回 電子システム研究科 9名

第30回 メカトロニクス研究科 20名が修了

2月26日(水)午後、平成25年度の京都高等技術・経営学院(学院長：天野嘉一副会長)の長期研修2コースの修了式が京都工業会館にて行われた。

当日は、修了生認定・修了証書の授与、皆勤・精勤賞の授与に続き、学院長 天野・本会副会長が式辞を述べ、そして来賓の京都府中小企業技術センター 副所長 三宅修二氏(京都府知事代理)より祝辞をいただいた。

式の後には親しく懇親会が行われ、半年以上に及ぶ長かった研修期間を振り返りつつ、和やかな雰囲気の中に終了した。

〈第33回 電子システム研究科〉

修了生 9名(7社)

皆勤賞 (2名)

上山 大輔(京セラ(株))

出口 翔太(株三橋製作所)

精勤賞 (2名)

佐野 哲(株島津製作所)

木村 隆明(ニチユ三菱フォークリフト(株))

〈第30回 メカトロニクス研究科〉

修了生 20名(14社)

皆勤賞 (3名)

藤田 広之(ニチユ三菱フォークリフト(株))

中塚 祐輔(日東精工(株))

太田 龍男(村田機械(株))

精勤賞 (5名)

川村 要(株カシフジ)

岩田 幸士(株GSユアサ)

山本 寿隆(株GSユアサ)

佐伯 崇洋(株島津製作所)

松本 拓也(株大日本科研)

3 研究会・懇話会 新年度会員募集

▶活動期間 平成26年4月～同27年3月

▶お申込み・お問合せ (公社) 京都工業会 事務局
TEL.075(313)0751 FAX.075(313)0755

京都環境管理研究会

環境管理実務関係者の研鑽と、会員相互のネットワークを広げる場として、毎年多くのご参加を得ています。
より効果的な環境管理を進めるため、本研究会にご参加下さい。

対 象 環境管理の管理者・実務関係者

活動内容 ①環境・エネルギーマネジメント（省エネ・省資源化等）の諸課題の研究
②ゼロエミッション、3R等の技術の研究
③環境に関する法規やCSR（企業の社会的責任）の研究
④ISO14001やKES等の環境マネジメントシステムの研究

運 営 ⑤今後の環境管理のあり方の研究 など
互選の幹事を中心に年間7回程度開催の例会、会員有志の年間を通じた特定テーマのワーキンググループ活動などを行い、以下の方式を取り入れながら運営します。

- 関係行政幹部との意見交流
- 環境関連先進企業・機関等の見学
- 会員相互の交流と情報交換
- 環境問題の調査研究（WG活動）
- 有識者による講演や指導
- 他地域の環境管理者との交流

年会費 本会会員 1名につき51,000円（税込み）
一 般 “ 72,000円（ “ ）

労働安全衛生研究懇話会

本懇話会では発足以来、会員企業の労働災害の防止のみならず、社員の健康管理の充実、メンタルヘルス対策、新しいマネジメントシステムへの取り組み等、様々なテーマで情報交換を行っています。

労働安全衛生に関するこれからの方向、めざすべきマネジメントシステムの研究や会員相互のネットワークを広げる場であると共に、貴重な他社事例を知る機会としてご活用下さい。

対 象 労働安全衛生管理の管理者・実務管理者

活動内容 ①労働安全衛生に関する政策、法令等の改定情報の把握・会員相互の情報交換
②労働災害・リスクアセスメント、メンタルヘルスケア等の現状把握・対策研究

③労働安全衛生に関する講演・研修会参加並びに企業・施設の見学

運 営 年間6～7回の例会を通じて、以下の方式を取り入れながら運営します。

- 関係行政幹部、会員相互の交流・情報交換と研鑽
- 有識者による講演・指導・セミナー等へ参加
- 労働安全衛生先進企業・施設の見学
- 会員への労働安全衛生関連情報の提供

年会費 本会会員 1名につき20,000円（税込み）
一 般 “ 31,000円（ “ ）

情報通信懇話会

本懇話会は設定テーマを通じての事例研究、情報提供、共通の問題点提起など、参加メンバーのネットワークづくり、情報交換、知見・見聞を広めていただく場を提供しており、他社の先進事例を知ることができる等、参加者から大変好評を得ています。

対 象 情報・通信システム関係の管理・監督者、実務担当者 など

目 的 会員各社の情報処理ならびに通信に関する共通課題を研究すると共に、会員各社の情報・通信システムに関する事例研究、情報交換および先進企業の情報処理の現場を見学することにより、情報収集と自己研鑽のためのネットワークづくりの場を提供します。

運 営 年間6～7回開催
初例会で研究テーマと担当幹事会社を決定。
輪番制の幹事会社が、例会の進行と担当テーマの取りまとめを行います。

〈今年度の研究テーマ案〉

- サイバー攻撃・テロについて
- タブレット端末の活用
- クラウド・仮想化への対応
- 情報システムの現状と課題 など

年会費 本会会員 41,000円
一 般 61,000円
(いずれも1口につき正準2名の登録・出席可)

～異業種の風土(手法、仕組み、ものの見方、考え方)に相互に触れ、注目の現場力及び人間力の向上を図る

平成26年度 業務革新研究会・会員募集

- ◇開催目的 各種手法やものの見方や考え方を磨き、業務革新を推進する人材の育成を図る
- ◇対象 管理技術関連部門のリーダー（主任、係長）及びその候補
- ◇会場 京都工業会館（京都市右京区西京極豆田町2）他
- ◇期間 平成26年4月～平成27年2月（計11会合）13：30～17：00（但し6～7月例会は、10:00～17:00）
- ◇運営 ①メンバーの目標や課題について、正副主査（その年度の登録メンバーより選出）を中心に企画し、基本を踏まえた実践的な運営を図ります。
②メンバー間のギブ&テイクや専任アドバイザーの助言、ゲスト講演、工場見学、演習などを効果的に実施いたします。
- ◇メリット ①実践的な内容により、一般のセミナーでは得られない幅広い視野と発想力を養うことができます。
②メンバー間やアドバイザー及びゲスト講師との人的ネットワークが構築できます。
- ◇展開 前期・基本編（5月～9月）→参加目的や実務経験に応じた選択制を採用
Aコース：手法や考え方を基礎から学ぶ Bコース：応用実務研究（展開&定着化）
後期・実務編（10月～2月）→コース毎の課題の掘り下げ（※必要に応じ実習、大会等を開催します）
※定例活動以外に特別合宿研修会（1回：全研究会対象：希望者のみ）を別途開催します。（要特別会費）
- ◇年会費 各研究会毎に1口 本会 会員企業 72,000円（税込）
（但し、1口につき2名の参加ができますので、極力2名ご登録願います）
- ◇お申込 本会 業務課 TEL.075-313-0751

【総合オリエンテーション・第1回会合】 4月24日(木) 13：30～17：00 於：京都工業会館

《8研究会の主な研究予定項目》

品質革新研究会

～初期流動管理及び工程内品質対応による品質革新力の強化～

- ◇初期流動管理による生産初期段階の品質向上
- ◇手法活用による工程内不具合及びサプライヤー、客先クレーム&故障解析
- ◇企画、開発段階での新製品評価方法
- ◇ソフトウェア開発における品質保証方法
- ◇企業訪問や講演による先進企業の事例研究

生産革新研究会:基礎IE部会

～IE手法による徹底したムダの排除～

- ◇3S、5Sの導入・定着と効果的な運用方法の事例研究
- ◇IE手法・通り診断法による効果的な現状分析
- ◇標準作業3点セットによる改善方法
- ◇現場改善実習による作業改善方法の実践研究
- ◇外部企業訪問によるIE活用事例研究

生産管理研究会 ～TOC制約条件理論による生産管理革新～

- ◇生産管理の基礎研究ともの作りにおける問題解決方法
- ◇生産方式(MRP、製番、かんばん)の違いと管理ポイント
- ◇生産管理システムとIT活用事例(ERP)
- ◇先進企業の訪問や事例紹介に学ぶ生産管理システム
- ◇参加企業における全体最適もの作りの研究(TOC実践演習)

生産革新研究会:JIT改善部会

～トヨタ生産方式による生産革新力の強化～

- ◇JIT生産構築方法
- ◇流れ生産方法
- ◇平準化方法及び各種ツール活用
- ◇かんばん、ストアの運用・管理
- ◇JIT生産企業の訪問やメンバー企業におけるJIT実践研究

VE(開発・設計革新)研究会

～機能研究による付加価値の追求～

- ◇簡易演習によるVE活動の実施手順
- ◇開発設計プロセスにおけるVE活用
- ◇開発設計プロセスにおけるQFD、DR
- ◇開発、設計段階のVE実践研究(付加価値向上)
- ◇先端事例に学ぶVE実践&リーダー育成方法

生産現場リーダー力強化研究会

～監督者哲学、リーダーシップ養成の場～

- ◇作業の標準化による品質の作りこみ
- ◇改善提案、5S、KY活動による強い現場作り
- ◇製造コストダウン ◇リーダーシップ
- ◇参加企業及び外部企業訪問による現場管理・改善事例

購買調達革新研究会

～購買調達革新によるコスト競争力の強化～

- ◇あるべきコスト(例:PCS)の求め方と運用及びコスト体系
- ◇購買市場調査の計画立案と進め方
- ◇パートナー企業の集約・評価、指導、育成方法
- ◇下請法に基づく集中購買、拠点購買、開発購買等、購買戦略
- ◇グローバル調達とSCMを組み合わせた新しい調達方式

設備保全(TPM)研究会

～自主保全、個別改善、LCAによる設備稼働率の向上～

- ◇生産システム効率化の個別改善
- ◇オペレーターの自主保全体制づくり
- ◇保全部門の設計保全体制づくり
- ◇品質保全体制づくり
- ◇先進工場訪問によるTPM活動の推進事例研究及び参加企業でのTPM実践研究

平成26年度

知的財産権研究会 ご案内

- 目的** 知財スタッフとしての業務推進力の向上、及びヒューマンネットワークの構築
- 対象者** 知的財産権関連部門の中堅実務者及び同候補
- 期間** 平成26年5月22日(木)～平成27年2月
原則として毎月第3木曜日 13:30～17:00開催
- 会場** 京都工業会館ほか
- 運営** ①代表幹事を中心に企画し、参加者の意見を基に柔軟に運営を図ります。
②◇ゲスト講演 ◇企業見学 ◇裁判傍聴・口頭審理傍聴 ◇判例研究 ◇ディスカッション等の活動手法を用いて知財感覚を磨き、効果的に実力アップを目指します。
- メリット** ①特許権等の関心が高い領域の課題や実務上の悩みなどについて、基本を踏まえた実践的な運営により普段の業務では得られない実力を付けて頂きます。
②一般のセミナーや社内のみでは得難い幅広い視野や考え方を養え、社内での問題解決の糸口を得ることができます。
- 幹事アドバイザー** N S I 国際特許事務所 所長 / 弁理士
清水 尚 人 氏
- 年会費** 本会会員企業 72,000円 / 1口 (税込)
(1口2名まで登録可能です。)
- 問合せ** 本会 業務課 TEL.075-313-0751

鳶の会、白鷺クラブ

4 / 3

平成26年度 定期総会を開催

4月3日夕、鳶の会・白鷺クラブの平成26年度定期総会に両会員30名が出席し、東山区の翠雲苑において開催された。

平成25年度の活動報告、平成26年度役員の選任、更には同年度の事業計画について討議を行い、全ての議案について承認された。

〈平成26年度役員〉

代表幹事：

代表幹事：



坂 栄孝君
(坂製作所・社長)



古澤 志津夫君
(三幸総研・社長)

＜新役員＞

幹 事：砂碕 達哉君 (砂碕製作所・社長)

〃 丸山 栄三君 (丸山製作所・社長)

〃 片岡 宏也君 (片岡製作所・取締役)

～徹底したムダの排除による原価低減と人材育成に取り組もう！～

第16回 京都K A I Z E N大会を開催

2 / 21

今、変種変量短納期生産の時代を迎え、生産部門には段取り改善やカンバン方式によるフレキシブルな生産体制の構築が求められているが、本会ではこれらの課題への対応事業として、1999年より「京都K A I Z E N大会」を開催している。

この事業は、I E手法の効果的な活用方法を研究している本会・生産革新研究会：基礎IE部会及びトヨタ生産方式の構築方法を研究しているJ I T改善部会をベースに広く会員内外に参加を呼びかけており、今回も65社130名の参加者を得た。

冒頭、技術・教育委員会 委員長 太田 稔 (日新電機(株))が「厳しい経済情勢の中、他社の事例や講演を通し、今後の自社の生産革新活動に活かして欲しい」と挨拶。

まず、第1部として、基礎IE部会が、(株)山岡製作所 宇治田原工場 (基礎コース) とオムロン京都太陽(株) (応用コース) で行った現場改善実習についての成果をそれぞれ報告した。

その後、実習会場をご提供いただいた(株)山岡製作所 プレス課長 砂岡真一氏とオムロン京都太陽(株)社長付 吉岡 隆氏が、「異業種の方々のアイディアは、ヒント

になる。今後、出来るテーマから取り組んでいきたい」とそれぞれコメントを述べられた。

そして、基礎I E部会アドバイザー 吉植久正氏 (N P Sソリューション代表) が「各コースともI E手法を効果的に活用できた実習だった。やはりI E手法は繰り返し、活用することで使う幅を広げていただきたい」と年間活動をまとめた。

続いて、トヨタ生産方式の構築方法を工場見学を通し研究してきたJ I T改善部会より、J I T見学事例やO B企業訪問による生産革新活動のポイントを報告し、J I T改善部会アドバイザーの岩井一郎氏 (生産システム改善研究所所長) が、「J I T生産構築のポイントは、生産の平準化と情報化で各部門をスルーにつなぐ事。」と年間活動を総括した。

そして、第2部は、富士ゼロックスマニファクチャリング(株)生産革新グループ長 谷口雄一氏が、「改善し続ける風土の醸成」をテーマに講演、2004年から全員参加で推進してこられた生産革新活動の経過とマンネリや停滞を生まない研修制度を詳細に述べられ、盛況裡に大会を終えた。

新入会員ご紹介

〈正会員〉

(3月12日、第294回理事会で承認されました。)

会 社 名	代 表 者 名	所 在 地 (TEL・FAX・取扱品目)
(株)伊藤製作所	社 長 伊 藤 博 一	〒607-8201 京都市山科区栗栖野狐塚18-5 TEL.075-593-3600 FAX.075-501-0494 精密機器製造
エース設計産業(株) 京都事業所	社 長 西 澤 俊 光	〒600-8233 京都市下京区油小路木津屋橋下ル北不動堂町480 TEL.075-354-9190 FAX.075-354-9195 各種産業機械の設計・製図
(有)協和熔工	社 長 奥 村 和 夫	〒617-0836 長岡京市勝竜寺六ノ坪8-1 TEL.075-959-0287 FAX.075-957-2281 精密板金加工、溶接加工、レーザー加工、曲げ加工
(株)三起エンジニアリング	社 長 上 羽 雅 雄	〒601-8036 京都市南区東九条松田町142-16 TEL.075-681-8149 FAX.075-681-8149 分析・精密機械の組立・調整
中 嶋 金 属 (株)	社 長 中 嶋 哲 也	〒615-0052 京都市右京区西院清水町4 TEL.075-311-4267 FAX.075-311-3356 金属表面処理
三 菱 電 機 (株) 京都製作所	所 長 能 勢 純 一	〒617-8550 長岡京市馬場町所1 TEL.075-958-3069 FAX.075-958-3711 電気機械器具製造業

〈特別会員〉

京 都 北 都 信 用 金 庫	理 事 長 森 屋 松 吉	〒626-0041 宮津市字鶴賀2054-1 TEL.0772-22-5121 FAX.0772-22-7941 金融機関
-----------------	---------------	---

平成25年度 京都府優秀技能者表彰
「現代の名工」
〈機械加工〉 (株)丸山製作所 中川 勇氏

平成25年度 京都府青年優秀技能者奨励賞表彰
「明日の名工」
〈機械組立仕上げ〉 長島精工(株) 多田 允氏

平成25年度 京都中小企業技術顕彰
優秀技術賞受賞

◆トタニ技研工業(株) (社長：戸谷 幹夫氏)

本会関係では、以上2氏、1社が受賞されました。
会員各位とともに、心よりお祝い申し上げます。

第46回 通 常 総 会

〈予告ご案内〉

と き：平成26年5月23日(金) 15:00～18:30

と ころ：京都東急ホテル

- 議 題：・第46期事業報告及び収支決算承認の件
・第47期事業計画及び収支予算報告の件
・役員の任期満了に伴う改選の件
・定款の変更及び会費規定の一部改正の件
・常勤の理事の年間報酬総額決定の件

京都工業会ニュース No.378

■2014年4月14日発行

■発行 ―― 公益社団法人 京都工業会

〒615-0801 京都市右京区西京極豆田町2
TEL.075(313)0751 FAX.075(313)0755
U R L : <http://www.kyokogyo.or.jp>
E-mail : info@kyokogyo.or.jp